

ちよつとしい話

～ 苦 集 滅 道 ～

お釈迦様が覺りを得て、初めて鹿野苑ろくやおんに於いて5人の比丘びくを前に教えを説かれました。これを初転法輪しょてんぼうりんと言います。その内容が「四諦八正道したいはっしょうどう」です。四諦とは四つの真理「苦諦・集諦じつたい・滅諦めつたい・道諦どう」の事です。勿論「苦集滅道くじゅうめつどう」これが仏教の根本であり根底になる思想です。苦諦とは「生・老・病・死」を指し、この世での生活の全て（苦悩、氣力の喪失）を言います。欲望渦巻く人生を迷いの小舟に乗せられて荒波に漂ただようが如き危うい状態さらに晒されている姿です。今も国民は、老いる時の年金、福祉の問題、病やその介護、安楽死等の問題を含め、まさに地獄の苦しみを肌で感じ、悩んでいる事です。集諦とは苦諦の原因がなんであるのか知る事です。「先祖からの因果応報なのか、欲望ばかりに走り、他の人を顧かえりみる事もなく、自我、自賛に因るのか、家族、親族、社会に対しての生き様は如何どうであったか等々」。各人の事績の反省です。滅諦は苦諦・集諦の結論を導き出し解脱の準備が出来た状態を言います。道諦とは解決に至る修行の方法を言います、良薬は口に苦にがいものです。それには八正道、八つの正しい道があると言うのです、正しい修行には苦しみはつきものです。第34号を参照。自分が言った事、やった事はいずれ自分の元へ帰って来ますから用心しましょう。今日も何か良い事を人知れず、実践出来たでしょうか、人として犬・畜生にも劣る事など無かったであろうか、毎日の積み重ねが「善と悪」に振り分けられて閻魔帳えんまぢょうに記載されて行く、あな恐ろしき事かな。懺悔、懺悔六根清浄。戦 戦 善入院油掛地藏尊